

京都府亀岡市 「地域連携サポートプラン」

提 案 書



平成30年3月

国土交通省

近畿運輸局

近畿運輸局京都運輸支局

京都府亀岡市の概要、公共交通に関する主な取組

市の概要

- 京都府の中西部に位置し、東は京都市、南は大阪府と隣接している。JR山陰本線によって京都市と結ばれ、市内を京都縦貫自動車道・国道9号が貫通しており、京阪神都市圏からの自動車アクセスについてもすぐれている。
- 市街地はJR亀岡駅周辺及び国道9号線等幹線沿いに構成されている。市域の7割が山林で、周囲を山々に囲まれた盆地状の地形となっている。豊かな自然は観光地としての一面を持ち、嵯峨からの観光トロッコ列車や、嵐山に向かって急流を下る保津川下りは、国内外問わず観光客に人気がある。
- 人口は、平成12年に94,555人とピークを迎えるが、その後減少傾向となり、平成28年度末には90,315人となっている。高齢者人口は山間部及び農地部を中心に増加傾向にあり、高齢化率は約26%となっている。



人口：90千人
面積：224.8km²

公共交通に関する計画及び取組み

◆基本方針・計画・体制

H19	亀岡市地域公共交通会議	設置
H25	亀岡市地域公共交通協議会	設置
H26	亀岡市地域公共交通計画	策定（5年）
H30	亀岡市地域公共交通網形成計画	策定予定



◆取組み

H14	「亀岡地区コミュニティバス」試験運行
H17	「ふるさとバス」運行 ※京都交通路線バスの廃止代替
H28	「篠地区コミュニティバス」試験運行 東別院地区におけるデマンド交通試験運行
H29	「亀岡市コミュニティバス」「ふるさとバス」運賃改定 75歳以上もしくは免許返納者を対象とする敬老乗車券を設定



◀かめおかばすまっぷ

京都府亀岡市における公共交通の現状と課題

公共交通の現状

○市内の公共交通は、鉄道(JR山陰本線:4駅、嵯峨野観光線:1駅)、京阪京都交通(株)バス8路線(季節運行、実証実験運行含む)、コミュニティバス2路線・ふるさとバス5路線(運行は京阪京都交通(株)に委託)により形成。

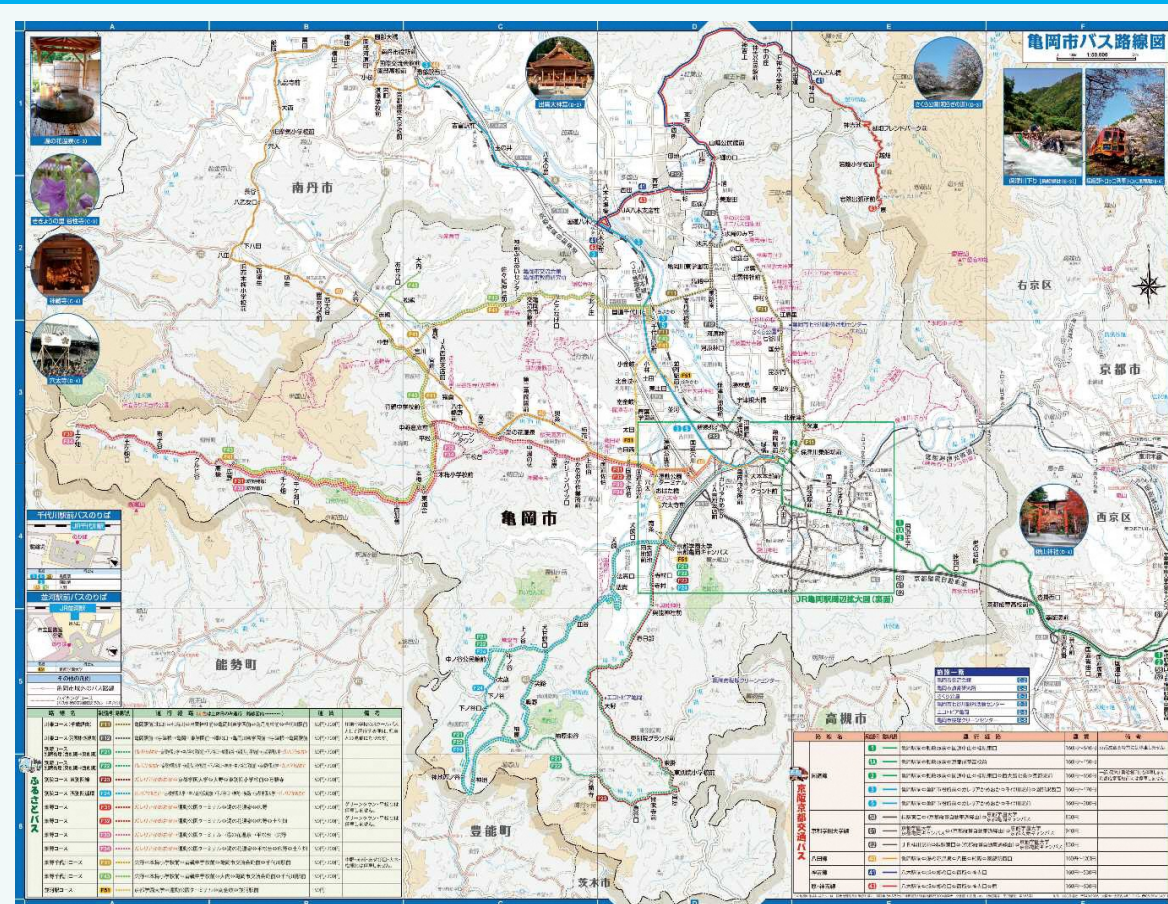
○「ふるさとバス」は一部の路線を除き、利用者数は微増傾向にあるが、低額な運賃設定等による行政の負担はなお大きい。

○「亀岡市コミュニティバス」について、亀岡地区2路線は利用者数が微増傾向にあるが、試験運行中である篠地区路線は利用者数が伸び悩み、行政の負担が大きい。

○山間部および郊外部とJR亀岡市駅周辺を直接結ぶ路線はなく、「運動公園ターミナル」「京都学園大学京都亀岡キャンパス」の各交通拠点で、ふるさとバスから路線バスに乗り換える必要がある。

○高齢化の進む一部地域において、路線バスの既運行エリアであるものの、低額運賃であるコミュニティバスの延伸要望がある。

○一部の公共交通空白地(東別院地区)においてデマンド運行が行われている。



課題

- ① まちづくりと統合的な公共交通ネットワークの再構築
- ② 路線バス・ふるさとバス・コミュニティバスの利便性向上
- ③ 交通空白地・不便地域の移動手段の確保
- ④ 観光客の取込みによる賑わい創出(トロッコ・保津川下り客の回遊・滞在拡大等)
- ⑤ 市民・地域での公共交通に関する関心の喚起

課題解決に関する提案（京都府亀岡市）

課題① まちづくりと統合的な公共交通ネットワークの再構築

- 亀岡市においては、民間路線バスに加え、運行を開始してから10年以上が経過した亀岡地区コミュニティバス、ふるさとバスや、近年運行が開始された篠地区コミュニティバス、東別院地区でのデマンド交通等、輸送手段が多様化している。
- また、本年1月に着工した京都スタジアム(仮称)整備や、駅前広場整備を含む亀岡駅北側の再開発事業(平成32年頃概成予定)等により、亀岡駅をはじめとする市中心部のまちづくりが大きな転換を迎えつつあるほか、嵯峨野トロッキ列車や保津川下りを目的とした亀岡市域への訪日外国人観光客も増加する等、市内の公共交通をめぐる環境が変化している。
- 平成26年策定した「亀岡市地域公共交通計画」は平成30年度が計画最終年度となっており、この機会を捉え、市の公共交通ネットワークを面的に見直すことが必要である。



亀岡地区コミュニティバス



京都スタジアム(仮称)の鳥瞰イメージ
亀岡市HPより



亀岡市
地域公共交通計画

課題①に対する提案

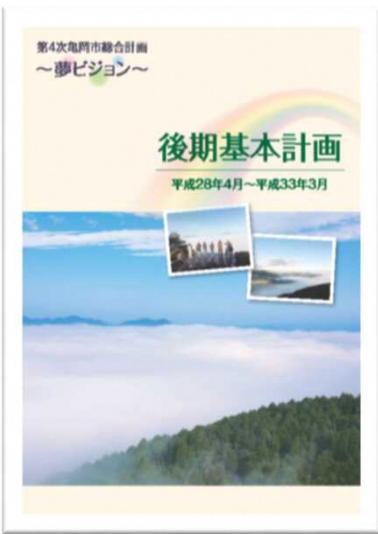
◎ 地域公共交通網形成計画の策定

- 地域公共交通網形成計画を策定し、まちづくりの計画と一体的に地域公共交通網の再構築を図ることが望ましい。
- 計画の策定に際しては、以下の点に留意しつつ検討することが有効である。
 - ・ 現行の「亀岡市地域公共交通計画」の実施状況の検証を行うこと
 - ・ 民間路線バス、ふるさとバス、コミュニティバス、地域主体型交通等、各交通機関が果たすべき役割・期待されるサービス水準を明確化し、適切な役割分担を図ること
 - ・ 交通担当以外の各部門（産業、観光、都市、土木、福祉、教育等）に幅広く参画を求め、施策の相乗効果を高めるとともに、市全体の行政リソースを効率的に活用すること

（他部局との連携施策の例）
福祉：福祉部局が把握している地域の高齢者等の移動ニーズの交通施策への反映（運行形態、サービスレベル等）、福祉部局が行う要支援者向け移動サービスとの協力
観光：企画乗車券の開発、観光客と地域住民との混乗によるバス乗車率向上
産業：商業施設への働きかけ（バス停・バスロケーションシステムの設置、公共交通利用者に対する割引サービス）
都市：土木：道路・市街地の整備状況に応じたバス路線の検討、渋滞箇所改良の協議
教育：公共交通に関する学習・啓発活動推進、公共交通を利用した通学の呼びかけ

- 計画の策定にあたっては、本提案書を検討材料とし、ご活用頂きたい。

※ なお、計画の策定にあたっては、国の支援制度（地域公共交通調査事業（計画策定事業））を活用することも可能である。



第4次亀岡市総合計画



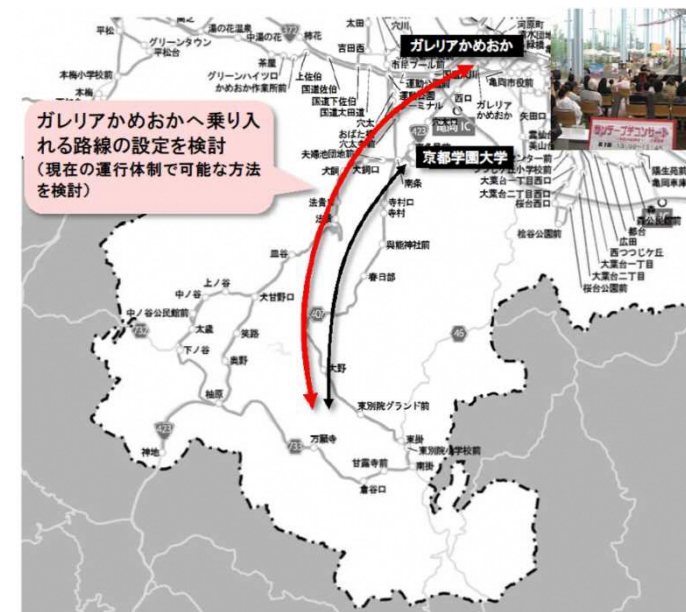
地域公共交通確保維持改善事業

課題解決に関する提案（京都府亀岡市）

課題② 路線バス・ふるさとバス・コミュニティバスの利便性向上

- 亀岡市ふるさとバスは、市郊外部を中心に運行しており、亀岡駅を含む市中心部を運行する京阪京都交通の路線バスとは、乗継拠点（京都学園大学、運動公園ターミナル）での乗継ぎが可能となっている。ダイヤも工夫され接続は良好であるが、乗継ぎが発生することについては、高齢者の身体的な負担や、運賃がふるさとバスと路線バスとの併算となることによる負担の軽減を求める声があり、更なる工夫が課題である。

※平成29年9月より、土休日に限り市中心部に近い「ガレリアかめおか（生涯学習施設・道の駅）」までふるさとバスが延伸運行



亀岡市地域公共交通計画より

- 市内のバス交通ネットワークは、市域のカバー状況や運行本数等については一定の水準が確保されているが、幅広い利用者層にバス交通を継続的に利用してもらうため、車両、バス停・バスターミナル等様々な面で、高齢者や子供連れ利用者、買い物・旅行等で大きな荷物を携行している利用者等にも安心して利用してもらえるよう、利用環境の高質化を図ることが必要である。



国土交通省HP 第36回総合的交通基盤整備連絡会議 資料より

課題解決に関する提案(京都府亀岡市)

課題②に対する提案

◎ 乗継抵抗の軽減

運賃

- ・乗継ぎによる運賃の割高感を軽減するため、ふるさとバスと路線バスとの乗継ぎに乗継割引を導入することが考えられる。

運行形態

- ・乗継抵抗の軽減にあたっては、運行形態・区間等の工夫についても検討の余地があるが、具体的方策を検討するにあたっては、以下のような点に十分に留意することが必要である。
 - 一般路線バスは大型車両、ふるさとバスは中型車両と、車両の運用が異なっていること
 - 現在でもふるさとバスは郊外部を5台のバスで5コース(川東、別院、畑野、畑野千代川、並河)を遊休時間なく運行しているなど、バスの車両運用が逼迫していること
 - バス業界全体で人手不足が深刻化していることもあり、乗務員の繰合せにも配慮が必要であること



亀岡市ふるさとバス



京都学園大学バスターミナル

課題解決に関する提案(京都府亀岡市)

課題②に対する提案

◎ バス停留所・バスターミナルの高質化

- 病院、商業施設、役所等、高齢者等の要支援者を含む多くの利用者が見込まれる施設の最寄り停留所については、施設の所有者・管理者との協議のうえ、可能な限り施設敷地内に設置し、降車後の移動負担の軽減、バス待ち環境の向上を図ることは有効である。
- 鉄道との接続点であり、来訪者、地域住民ともに多くの利用が見込まれる亀岡駅前バスターミナル（再開発予定の駅北口側も含む）、ふるさとバスと路線バスとの乗継ぎ拠点である運動公園ターミナルや京都学園大学、多数の系統が乗り入れるギャラリー亀岡等においては、以下のような施策により利用者利便の向上を図ることが考えられる。



バス乗り入れ事例（亀岡市役所）

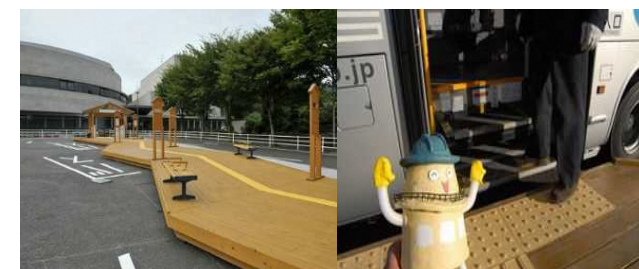
【コンビニ等の協力による店内活用】



モーダルコネクットの強化 バスを中心とした道路施策より



JR亀岡駅
自由通路設置
バスロケーションシステム



【参考】せせらぎバスセンター乗降場デッキ(木造)
出典：埼玉県ときがわ町HP

情報提供の充実

- ・ 現在路線バス(京阪京都交通)において導入されているバスナビゲーションシステムと連動した案内サイネージの整備や、標柱へのQRコード掲出による接近情報の提供等

乗降環境の改善

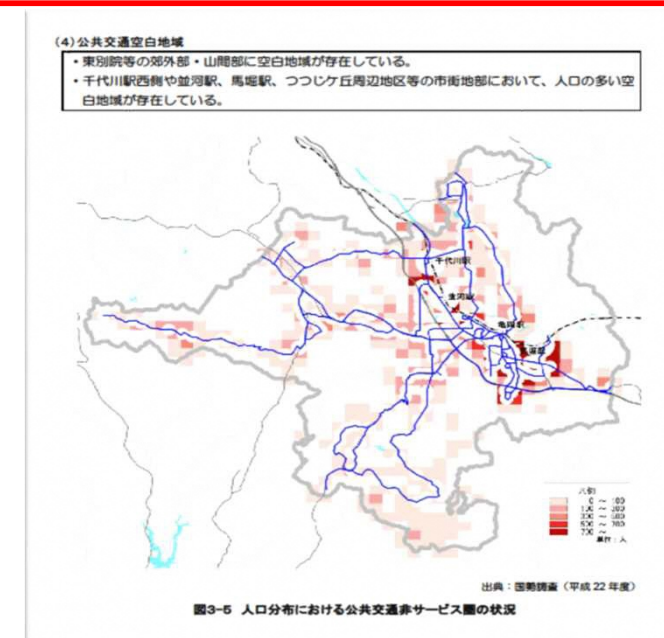
- ・ 縁石や乗降デッキの工夫・改良によりバスの正着性を高め、乗降の負担を軽減すること等

課題解決に関する提案(京都府亀岡市)

課題③ 交通空白地・不便地域の移動手段の確保

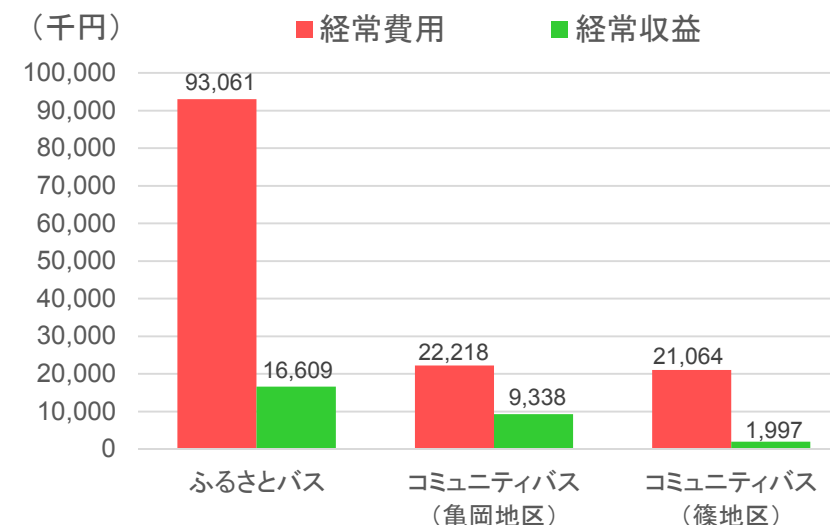
- 市内は、既存のバスネットワークにより公共交通による移動が可能な環境が一定程度整えられているが、亀岡駅等市の中心部から離れた郊外部に交通空白地・不便地域が点在しているほか、比較的中心部に近い地域においても、ラストワンマイルの移動について公共交通の充実を求める声がある。

※ 亀岡市では平成28年6月より「地域交通支援事業」を開始し、交通不便地域において地元住民が主体的に行う生活交通事業(無償運送)に対し市が支援を実施。



亀岡市地域公共交通計画より

- 交通空白地・不便地域へのサービス拡大に際しては、行政の財政的制約、車両・乗務員等事業者のサービス供給力の制約、道路整備状況や幅員、高低差等の物理的制約のほか、ルートの複雑化により路線の長大化・複雑化、速達性の低下等、かえって利用者利便の低下を招くことがある点を考慮しなければならない。



亀岡市データ(平成28年度)より

課題解決に関する提案(京都府亀岡市)

課題③に対する提案

◎多様な輸送手段の組合せによる地域の足の確保

既存バスの活用

- ・ 郊外部を中心に運行するふるさとバスは、現在決められた停留所でのみ乗降を行っているが、一部区間でフリー乗降を導入し、移動ニーズに細やかに対応することが考えられる。

タクシーの活用

- ・ タクシーは、機動性、少人数輸送の効率性に優れていることから、交通空白地域・不便地域を中心に、高齢者等要支援者のタクシー利用を助成することが考えられる。

群馬県前橋市（移動困難者へのタクシー運賃助成制度）

【概要】

移動困難者向けにタクシー運賃の一部を支援する制度を実施。2人以上の相乗り利用の場合、1人1乗車につき最大500円を支援。単独利用の場合、2千円以下の場合は運賃の半額、2千円を超える場合は千円を支援

【対象者】

前橋市に住民登録しており、次のいずれかの条件に該当する方

- ・75歳以上
- ・65歳以上で運転免許なし
- ・身体障害者、妊産婦等
- ・運転免許自主返納者



愛媛県愛南町

【概要】

バス停からの距離に応じて500円～1,500円のタクシー料金の一部を助成（年間50回まで。町内の移動に限る）

【対象者】

満70歳以上又は満65歳以上の身体障害者等で、乗合バスとコミュニティバスの停留所（フリー乗降できる区間は路線から300m以上家が離れている方

バス停からの距離

大阪府松原市

【概要】

タクシー利用に使える助成券を交付。（申請月から1ヶ月当たり2枚を交付）

- ①福祉タクシー1乗車につき500円分の助成券（要支援2以上）
- ②福祉リフト付きタクシー1乗車につき1,400円分の助成券（要介護4、5の方が対象）

【対象者】

在宅生活している65歳以上の方で介護保険制度における要支援2以上の認定を受けている方

要介護度

高齢者の移動手段の確保に関する検討会 中間取りまとめ 参考資料より

- ・ 一定規模の需要がある地域においては、乗合タクシーの導入も検討に値する。運行方式別の活用事例について国土交通省で紹介しているので参照されたい。
（国土交通省HP）乗合タクシーの活用について
<http://www.mlit.go.jp/common/001176322.pdf>

住民主体型交通について

- ・ 既存の交通事業者によるサービス対応が困難である場合には、地域住民・自治会等が積極的に関与する地域主体型交通の導入を市が支援する等、住民提案型の取組みを活用した地域の足の確保も有効である。



地域主体型交通の例〔兵庫県豊岡市〕
地域コミュニティ主体によるデマンド型運行「チクタク」
豊岡市HPより

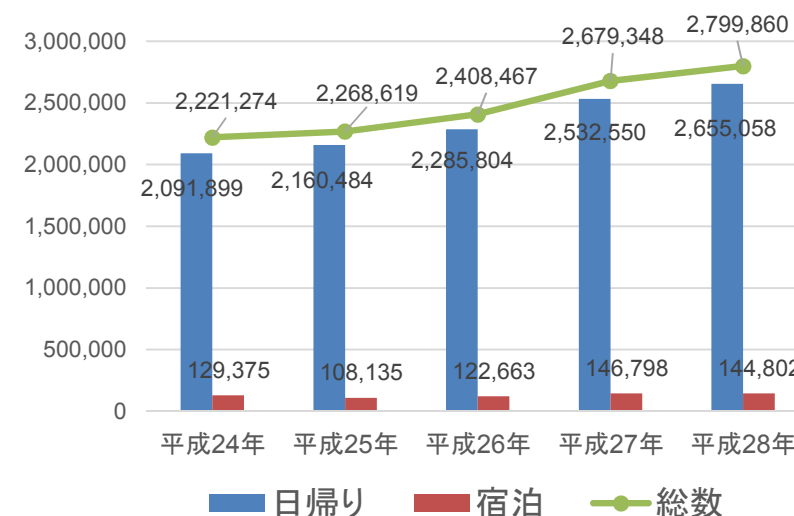
課題解決に関する提案（京都府亀岡市）

課題④ 観光客の取込みによる賑わい創出 （トロッコ・保津川下り客の回遊・滞在拡大等）

○ 亀岡市は、世界的な観光地である京都市と隣接しており、嵯峨野トロッコ列車、保津川下り等の有力な観光資源を擁しているため、年間300万人近くの観光客が来訪し、中でも嵐山・京都方面からの外国人観光客が急増している。他方、その多くが市内に長時間滞在することなく通過し、嵐山・京都方面に戻っている状況にある。

○ インバウンドをはじめとする観光客の増加を地域の活性化につなげるためには、観光コンテンツの充実と移動環境の整備を通じて市内での回遊・滞在を拡大することが必要である。

亀岡市観光入込客数の推移



亀岡市統計より



亀岡市HPより

課題解決に関する提案（京都府亀岡市）

課題④に対する提案

◎ 地域の特色を活かした観光地域づくり

- 亀岡市内には、城下町地区の酒蔵・町家や寺社、田園風景、湯の花温泉等、大都市部にはない日本的な魅力を備えたエリアが点在しており、地域資源を活かした戦略的な観光地域づくりにより観光客の回遊・滞在を促進することが考えられる。
- 観光地域づくりについては、近畿運輸局・観光庁において、近畿圏及び全国の観光地域づくりの事例を紹介しているほか、観光庁をはじめとする各省庁で、多種多様な支援メニューを設けており、これらを活用することも可能である。

・観光地域づくりの事例

近畿の事例：(近畿運輸局HP)近畿観光地域づくり事例集 2017

<http://www.tb.mlit.go.jp/kinki/koutsu/kankou/24jinzaiikusei.html>

全国の事例：(観光庁HP)観光地域づくり事例集 2015

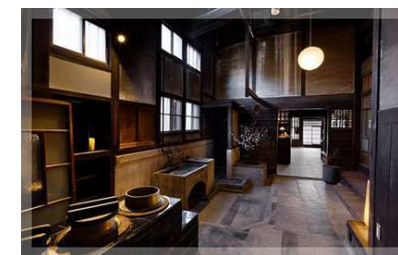
<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kankochi/ikiiki.html>

・支援メニュー(観光庁HP)観光地域づくりに対する支援メニュー集 (平成30年度政府予算案版)

http://www.mlit.go.jp/kankocho/page04_000072.html

- 特に、古民家等の歴史的資源を活用した観光まちづくりについては、内閣官房が「歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室」を設置し、意欲ある地域の取組を官民一体で支援する体制をスタートさせており、地域の相談を受け付けているので、これを活用することも可能である。

(内閣官房HP) 歴史的資源を活用した観光まちづくり連携推進室 <http://kominkasupport.jp>



古民家サポートHPより

◎ 観光と交通の連携

- 公共交通による観光旅客の回遊性の向上及び滞在促進を図るため、以下のような取組みが有効である。

・観光資源や観光スポットへの公共交通アクセス情報の多言語による発信

(パンフレット・ポータルサイト)

- ・ バスのフリー乗車券と施設優待特典を組み合わせた企画乗車券の造成・販売
- ・ 休日や観光多客期にトロッコ亀岡駅・馬堀駅方面から観光スポットを巡回するバスコースの設定 等



京都かめおか「菜の花畑」

観光と交通の連携が望ましい事例

課題解決に関する提案（京都府亀岡市）

課題⑤ 利用者・地域住民の公共交通に関する意識の向上

○ 亀岡市は、かねてから事業者と連携しつつ市内の公共交通の確保維持に積極的に取り組んでいるが、これを将来にわたって持続可能なものとするためには、行政・事業者のみならず、利用者や地域住民が、公共交通の機能、サービス水準とコスト・負担との関係等を理解した上で、公共交通のあり方に係る議論に主体的に参画することが重要である。

○ 亀岡市は、継続的に小学校での交通環境学習を行う等モビリティマネジメントにも意欲的に取り組んでいることから、これを更に充実させることによる、利用者や地域住民が公共交通に関する意識を向上させるための仕掛けづくりが必要となる。



亀岡市HP「平成29年度地域こん談会」より



亀岡市HP「亀岡市立安詳小学校にて交通環境学習の実施」より

課題解決に関する提案（京都府亀岡市）

課題⑤に対する提案

◎ 多面的なモビリティマネジメントの実施

- 公共交通の利用促進、理解の向上のため、以下のようなモビリティマネジメントの取組を行うことが考えられる。

- ・ 大井工業団地等、市内の企業・団体の事業所における、通勤時の公共交通機関利用を促すエコ通勤の推進

（参照）平成29年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰 愛媛県の実績
<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/ecommuters/hyoushou/newpage12..html>

→ ノーマイカー通勤、自転車通勤等の促進に取り組み、協賛店が参加者に特典を提供する等して公共交通機関利用の機運を盛り上げ

- ※ 京阪京都交通では、平成29年9月より、鉄道駅～大井工業団地を結ぶ通勤客向けの路線を新設（約1年間の実証実験）。市も利用促進に積極的に協力することが望ましい。

- ・ バス停付近まで自転車を利用しバスに乗り継ぐサイクル&バスライドの推進。既存の公共施設の駐輪場のほか、市内の企業・商業施設等にも駐輪スペース提供の協力を呼びかけることも有効

- ・ 市とバス事業者の協働による求人イベント、学生向けの職場見学・職業体験・バス乗り方教室等、バス交通の担い手確保のための取組み



京阪京都交通HPより



安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン より



亀岡市HP「亀岡市立川東小学校にて交通環境学習の実施」より

1. 平成29年 9月27日 市内バス路線及び交通不便地域の現地確認並びに亀岡市との意見交換
2. 平成29年10月13日 地域連携サポートプランの協定を締結
3. 平成29年11月16日 市内バス事業者、亀岡市関係者と意見交換を行い現状の課題等を確認
4. 平成30年 2月15日 地域連携サポートプラン課題研究会を実施

○ 平成30年1月30日に開催の地域交通会議で、交通空白地、不便地域の一部解消に向けたコミュニティバス、ふるさとバスの路線変更を決定(3月31日から実施予定)

